

# 大倫の花

東郷敏

諸人のご恩うけてぞ この日あり  
報わらざらめや いのちのかぎり。

このうたに誘われ、私もドイツに飛んだ。恰好のいい表現ではある、しかし実際はカバンもちだった。善光寺ご住職と成願寺方丈さまのお二人。事情は善光寺先住方丈さまがご生前、殊の外親交の篤かった欧州屈指禅センター。中川正壽主監の普門寺開創十周年。慶讃法要と主監晋山開堂慶事へのご案内、先の詩は本年二月善光寺へ届けられた一通の招聘状、その文面より借記す。拝見すると出席しない訳に参らぬ内容、

新命住職晋山結制式典後半に善光寺より御贈りした釈迦如来ご本尊さまとほか三体の仏像に加え、さらにご存命中先代方丈より届けられている。聖慈母観音菩薩と子安地藏菩薩、石像二体の開眼法要も相合わせ、現住方丈主導のもと同時進行したい旨示されている。

この式典には大悲山ご開山大本山永平寺不老閣猊下とその名代をはじめ、全国数十ヶ寺より大多数のご参列、さらに欧州、米国、日本中の高僧、仏教学者のご随喜ご尊宿も予定されている旨添えられている。本山と宗派をあげての慶

讚の様相。大層なこと、この状況よりなにかと推察すれば、横浜善光寺などいづれとつても新参、『枯木も山の賑わい』数の中、せめて先住方丈さまご存命なら随喜の涙もあろうにと貧しい申し上げようではありませんが、果たしてドイツまで馳せ参ずる価値があるものか、この時点では知る由もない。

さていかなものかと現住方丈に進言したことも懐かしい。現住方丈さまもさもありなん、しかし「礼は尽くしたい」やはりアイゼンブッフに参りましょう、開眼供養には最高の香語と懺法にのっとりて尽くしたいものです。ために私では未熟が過ぎていきます。斯くなる上は先住方丈に最も信任の篤い成願寺方丈さまにお出ましいいただきたい。さすればこの最善こそ先住方丈の悲願に叶うことだと思えます。やがてご両僧ドイツに赴く。

ではなぜドイツなのか、普門寺なのか、また

晋山開堂なのか、このところ些かでも説明がなければ付き合っておられません。先住方丈がどんなにグローバルイズムなグローバルストだと言うても、日野中央とは繋がらない。

このところ二〇〇二年ご遷化の二年前、成寿34号にDOGEN2002・七五〇回大遠忌ドイツ記念セミナーの講師として招かれ、そのレポートが具に記録されておりました。その延長線上にこの記念行事が再現されたことによります。

少し余談になります。現住方丈は二〇〇〇年に横浜善光寺継承者として承認され、書類上は第三世住職として命されている。

以来僅か四年の間、先住方丈は自ら踏んだ道を第三世に求め、大本山永平寺をはじめスリランカを経て、タイで上座仏教に得度。仏教伝来の中国を歩き、アメリカ本土は西から東までの寺院に行脚の足跡を印す。さらには欧州キリス

ト教團の歴史に学び、やがてこの巡行コースもドイツで佳境を迎え、禅センター普門寺で修業中、いみじくも師父大和尚の健康に異変が生ずる。とりあえず検査入院のはずだったが驚愕。

すでに命、旦夕に迫っているとの診断。既に時間の問題だと告知されているのに、それでも元氣印にさほどの変化はない。しかし猶予はならない、子息現住方丈は二〇〇四年六月ドイツ普門寺より帰国を余儀なくされ、それから六ヶ月後、ついに永遠の別れとなってしまった。

この四年間、あまりの性急に、なぜ急ぐのですか、なぜ急がすのですか、となどと、交わしたことなのか、都度に『オレには残された時間が微<sup>+</sup>ないのだヨ』うそではなかった。この経緯と因縁、人のいのちと数奇な運命に天空からの示唆と不可思議さを感じずにはおられません。現住方丈が辿った道のりは、奇しくも善光寺留学僧育英生が辿った道。先住さまご遷化で休会

中の育英会も、再開の目処順々と迫り、現住方丈の晋山式も待たれるところ。

### 仏種一粒大地に大輪

さて本筋に。九月六日ドイツアイゼンブッフ大悲山へは、東京永見寺さまが先導する。『アスパラ・クラブ観音懺法ツアー』に同道。全国から十ヶ寺十八名の高僧御代表さま、普門寺門前は各地・各国より侶<sup>りやう</sup>団が大挙押し寄せ、大悲山はさながら僧侶方の山と化す。私的に申し上げるならこの威容、異様としか映らない。

各種記念行事は山奥のアルプス丘陵地、大自然のいただきに三日間に亘る。ドイツへの旅とは名のみ、山に籠ったきり、俗界代表には、どうにも堅苦しい旅になってしまった、啞々。従うよりすべがない。さらに現住方丈のたまわく、期間中私は新参中の新参、裏方として過し、多分表には出られません。東郷さん写真など期待

しないでくださいと言われる。主のいない法要など無意味だと思っている。本当にガッカリする。ここまで来てそれはないでしょうとは腹に思うだけで口にはしなかった。

大悲山は荘厳な鐘と太鼓に彩られ、順々と執り行われてゆく。お釈迦さまが蒔かれた、八万四千種の種子一粒が、いまこの大地に発芽した瞬間でもある。そして大輪の花開く。

本来この地は、カソリック教徒の領域であり牙城、仏教徒に俄か変身した白人の面々、聞き入り見入って陶酔の境地。さても法要の大事な役どころ、すべて白人僧侶が担っている。私は成願寺さんに申し上げた。此処は外人ばかりですネ、跳ね返った成願寺さま。トーゴさん、ここではあなたがガイジンですよ。ハァー。

さて路々、家々の軒先や玄関に花や幟が飾られている。今日という日を祝福いただいていると思ひ込んでいた。ところが祝う相手の違うこ





とを知らされる。なんと当地カソリックの大本山バチカン宮殿の主、第十六世、ベネディクト現法王の出身地だという。丁度この日、この時、法王は故郷に錦を飾り、近くの教会で礼拝中とか。ドイツはもとより、世界中がいまここに注視している点(ピンポイント)の位置だった。(こままでの道のり、ものものしい警護、従って、一里の道も五里) 歴史的瞬間に遭遇したことになる。

多分十年前、この土地柄、宗教的宗派的に最もきびしく排他的環境予想だにされなかったものと思う。途中困難あったことも、垣間見える。しかし今日の慶事、近隣の市長、近く教会の司祭より祝詞が届いている。新命方丈さまのご人徳なのだろう、社会的認知も言わずもがな。人心を救うになんの遠慮がいりましようや。

先住方丈さまと中川主監との出逢い。十数年前、偶然が重なり、めぐり逢うべくして出逢っ

たという。ご苦労の最中、草創にて意気投合先住方丈自身が○からの出発をしただけに、寺づくりのむづかしさ、過程でなにをすべきか、なにが必要か、方向を共有しながら、基本中の基本。御開山を原点に求め、不老閣猊下をご開山さまに拜請。寺の形を整えつつ指向する内外の仏具、法具、仏像等とり揃える。さらに十周年を目指す。晋山式へと手配済みの菩薩像二体。このところ大圓大和尚、遙か極安樂世界より確認されたようです。実のところ現住方丈さまも、檀家役員もこんなところまでは承知していない寄贈の数々。時としてムダ使い。浪費ぐせの権化みたいな言上したり思ったり。しかし聖地で中川主監さまより具に伺い、半端でない在り方、唯々敬服、感服、改めてこの尊い犠牲心に感泣する。いかにも『自未得度先度他の心』身を削り、人に尽くさんスリコギのその味、知れる人ぞ大圓武志大和尚。唱えるだけではなかった。

嗚呼!!

### 一筋の光燦然

晋山開堂の冒頭 須弥壇上に登座する中川主監、一仏両祖、歴代大和尚さまに報恩香を捧げたのち。

横浜善光寺二世中興大圓武志大和尚さまのためにと報恩香を焚き、感謝報恩の誠を捧げ尽くすと高らかに心情を吐露されたとき、私は耳を疑ってしまった。ここは遙かドイツなのだ。突然先住方丈さまの存在と靈魂が蘇った瞬時。私は矢庭に現住方丈を探した。会場におられるはずはなかった。ところがなんと須弥壇のもとに坐しておいではないか。新命中川主監の御心遣いはいまその子に報いて下さっている。いま座している位置は現住方丈の居る処ではない。名代をつとめる現住方丈さま、胸を張りピーンと背すじを伸ばしマコト堂々たる哉、須弥壇を

凝視する。目は潤み充血に濡れている。キット父大圓武志大和尚もありがとうアリガトウ有難うヨと。

時に私は思う、新命さまがここに至るまでどれだけ多くの方々のお力添えがあったのか、想像を超えている。善光寺先住さまと中川新命方丈さま、共にあい教えあい導かれて網のごとく、縁に結ばれし、このお二人、いまドイツの大地に壮大な曼陀羅の図を画いた刹那でもあろう。花ひらく時蝶来たり、蝶来るとき花ひらく。いかにも啐啄同時。心魂の世界。

最終日、すべての行事の締めくくり、全員参加の号令が裂く。大悲山普門寺の玄関口、この三日間空には一点の雲もない青天上。菩薩像の前に設えられた三方。その中央に大圓武志大和尚さまの遺影、現住善光寺方丈の懐に抱かれてきたおまもりである。新命さまにお供えのお許





しをいただいで鎮座<sup>ま</sup>升す。相合わす観音・地藏  
大菩薩像。大本山總持寺講師成願寺方丈さま導  
師による開眼法要。介添える現住方丈。ドイツ  
の信徒も、日本より馳せ参じた諸人も、合掌低  
頭相身互い。美事な香語と読経に酔ひしれる。  
菩薩さま どうぞ衆生に救済を。今日よりのち  
は我をこそ、冥途の親と思うべし。一瞬、天空  
より降り注ぐ一筋のひかり燦<sup>えん</sup>然<sup>ぜん</sup>。

吉祥 吉祥 大吉祥。